

図書館で待ってる

October - November 2020

こんな本



読んでみて

take free No. 85



目次

図書館で待ってる 1

Book designの世界 vol.15 8

ちょこちょこ日記 #25 12

## 図書館で待ってる





## 本と鍵の季節

著者／米澤穂信  
出版社／集英社  
出版年／2018年  
請求記号／913.6||Y 84

「放課後の図書室は静まりかえっている。」 p.104

図書委員になったことで親しくなった高校2年生の堀川と松倉が、本や些細な違和感をヒントに謎を解く。図書館の静けさが、少し切なく心にしみる物語。

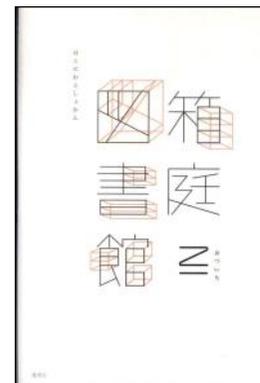


## アリスのうさぎ

著者／齊藤洋(作), 森泉岳土(絵)  
出版社／偕成社  
出版年／2016年  
請求記号／913.6||Sa 25

「市立図書館の貸し出しカウンターのはずれに、〈児童読書相談コーナー〉というものがあり、わたしはそこをまかされた。」 p.14

児童読書相談コーナーを訪れる人は、それまでだれにもしていなかった話を、なぜだかわたしには話したくなるようで…。ふとこぼしたように語られる不思議なエピソード。



## 箱庭図書館

著者／乙一  
出版社／集英社  
出版年／2011年  
請求記号／913.6||O 87

「【物語を紡ぐ町】。文善寺町のキャッチコピーを印刷した紙が図書館の掲示板にはられていた。」 p.283

WEB読者から寄せられたボツ原稿のリメイク企画から生まれた6つの物語。「箱庭図書館」という素敵なタイトルもTwitter上で募集したもの。乙一さんの作品の様々な魅力を味わうことができる。

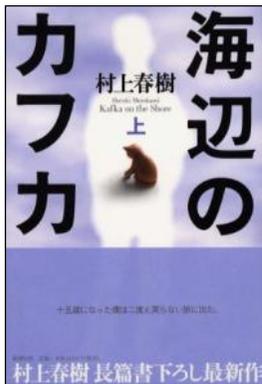


## みんなの図書室

著者／小川洋子  
出版社／PHP研究所  
出版年／2011年  
請求記号／904||O 24||1

「名前も知らない人々と、たった一冊の本を仲立ちにして繋がりが合っているのを感じるのです。」 p.3

小説家・小川洋子さんが、文学遺産と呼ぶに相応しい50作品の味わい方を伝える一冊。さまざまなジャンルの本を取り上げ、本と丁寧に向き合う温かな視点が印象に残る。



## 海辺のカフカ 上・下

著者／村上春樹

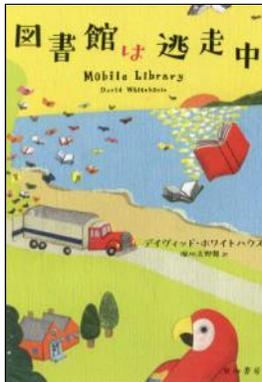
出版社／新潮社

出版年／2002年

請求記号／913.6||Mu 43||1・2

「図書館は僕の第二の家のようなものだった。」 p.57

15歳の誕生日に家を出て、遠く知らない町の小さな図書館で暮らすことになるカフカ少年と、猫と交流ができるナカタさんの〈入口の石〉をめぐる旅が交錯していく。



## 図書館は逃走中

著者／デイヴィッド・ホワイトハウス(著),  
堀川志野舞(訳)

出版社／早川書房

出版年／2017年

請求記号／933.7||W 68

「本を読んで、その物語に命を吹きこめば、本の中で起こる出来事があなたの身にも起こるわ」 p.76

居場所のない少年が、ある母娘に出会い、その母親が働いたくさんの本をトラックに積んだ移動図書館で本の魅力に気付く。ある出来事きっかけに、移動図書館での冒険が始まる。



## 麦本三步の好きなもの

著者／住野よる

出版社／幻冬舎

出版年／2019年

請求記号／913.6||Su 63

「扉が開いた瞬間に感じられる、過去から未来、果ては海や時空さえ超えたような図書館の匂いが好きだった。」 p.15  
大学図書館で働く20代女子・三步が好きなものを大切に過ごす日常がつづられた一冊。失敗したり、悩んだりしながらも、前向きな姿がほほえましく、元気がもらえる。



## 司書のお仕事

### お探しの本は何ですか？

著者／大橋崇行

出版社／勉誠出版

出版年／2018年

請求記号／013.1||O 69

「お探しの本は何ですか？ 読みたい本が見つからない。調べたいことがあるのにどの本を見たら良いかわからない。そんな時はご相談ください。」 p.164

新人司書・双葉の成長を通じて、司書の仕事を覗くことができる一冊。知らなかった図書館の姿を発見できるはず。



## 生きるための図書館

著 者／竹内 愨

出版社／岩波書店

出版年／2019年

請求記号／002||Is||1783

「わからないことを自分で解決できた喜びは、その読者のものです。それがその人の次の問題解決に役立ちます。」 p.201  
60年以上図書館と携わってきた著者による本書から、図書館と人と本を巡るこれまでとこれからを見つめることができる。人と本のつながりを考えさせられる一冊。



## つながる図書館

著 者／猪谷千香

出版社／筑摩書房

出版年／2014年

請求記号／016.21||I 23

「ここ十年ほどの間に全国あちこちの公共図書館で、変わったことが起きている。」 p.14

あなたにとって図書館はどんな場所？本書で紹介されるさまざまな図書館の取組から、新しい図書館の姿が見えてくる。図書館の可能性は利用者の可能性につながっている。



## 図書館さんぽ

著 者／図書館さんぽ研究会

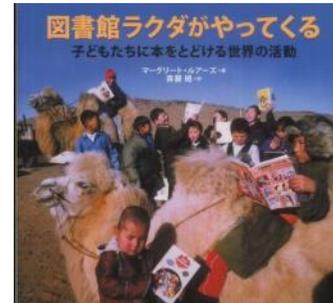
出版社／駒草出版

出版年／2018年

請求記号／010.21||To 72

「図書館は『本と人』はもちろん、『人と人』をつなぐ場にもなり、日々進化しているのです。」 p.3

おしゃれ、レトロ、新しい、カッコいい、そんな魅力的な図書館めぐりが楽しめる一冊。図書館を中心としたおさんぽコースで、町の雰囲気も味わえる。



## 図書館ラクダがやってくる

著 者／マーグリート・ルアーズ(著),  
齊藤規(訳)

出版社／さ・え・ら書房

出版年／2010年

請求記号／015.5||R 91

「図書館は、空気や水と同じくらい大切なものなのです」 p.5  
本を楽しみにしている子どもたちへ本を届ける移動図書館。トラックや船などの乗り物、そしてラクダやゾウなどさまざまな方法で届けられる。本と出会う喜びが詰まった一冊。

図書館で待ってる

# Book design

## の世界

vol.15

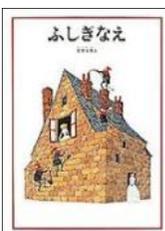
安野 光雅さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第15回目は、安野 光雅さんです。

現在、本の装丁は専門のデザイナーによるものが多いですが、昔は画家が手掛けることが多かったそうです。安野光雅さんは、教員として働きながら、本の装丁などを手がけ、35歳の時に画家として独立されます。94歳の現在も、画家・絵本作家・装丁家として幅広く活躍されています。近著に、『旅の風景』（山川出版社／2020年）、『私捨悟入』（朝日新聞出版／2020年）などがあります。

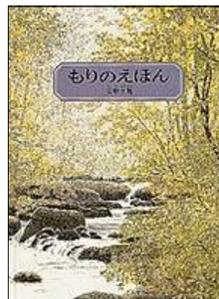


はじめにご紹介するのは『ふしぎなえ』（安野光雅 え／福音館書店／1971年／726.6||A 49）です。1968年に月刊「こどものとも」で、安野光雅さんが初めて発表された絵本です。ユーモアのあるだまし絵が楽しめる、文章のない絵本です。安野さんの装丁で印象的なのが、枠を用いたものが多いこと。下の2作品にも枠が付けられています。枠があることによって、額縁のように絵の魅力を引き立て、絵の世界に引き込まれる効果を感じます。

『きつねのざんげ』（安野光雅 著／岩崎書店／1979年／726.6||A 49）の装画に描かれた雪の中にいるきつねの姿に想像力がかきたてられます。本文には飾り枠が付いていて、静かな語り口の物語にそっと耳を澄ましているような感じがします。



『ふしぎなたね』（安野光雅作／童話屋／1992年／726.6||A 49）の表紙には枠とたねが金色で描かれています。「美しい数学」シリーズの一冊で、楽しみながら数に親しむことができます。



美しい森が広がる『もりのえほん』（安野光雅 絵／福音館書店／新版／1981年／726.6||A 49）。この森には、動物が隠されています。もちろん表紙にも。何か隠れているかもしれないとわくわくしながらも少し怖いような、森の空気を感じる絵本です。

『旅の絵本』（安野光雅 著／福音館書店／1977年／

913||A 49||1）。繊細に描かれた『旅の絵本』の中には、名画や物語のワンシーン、だまし絵、さまざまなものが見つかります。カバーにも旅人がいるのがわかりますか？当館では1～6巻を所蔵しています。1巻では中部ヨーロッパを旅します。



旅を眺めているうちに、自分が旅先で小さな発見をしているように感じられる絵本。安野さんは著書の中で「わたしたちは西洋と東洋のちがいにばかり目が行くが、よく考えてみると、違うところよりも同じことの方が多い。霧もかかるし虹も出る、雨は空から降り、屋根は傘のように雨を受ける。みんな同じ地球の上に住んでいる。そして国それぞれ、人それぞれに、ちがった毎日をおくっているのだと感じた。そのとき一千もの人々の暮らしの詰まった『旅の絵本』を描きたいとおもった。」と書かれています。



『あいうえおみせ』（安野光雅 さく・え／福音館書店／2012年／726.6||A 49）。こちらは「あいうえお」と「いろは歌」にそってお店が並んだ絵本です。こちらでも探し絵が楽しめます。表紙には、町の賑やかな様子と子どもたちの生き生きとした姿が描かれています。

## 『東京セブンローズ』(井上ひさし 著/文藝春秋/1999年/913.6||57)。

団扇屋の主人が書いた日記を通して戦後東京の下町の生活を伝える小説。町の様子が描かれた装画からは、たくましく生きる人々の声が聞こえてくるようで、物語の世界へ導かれます。安野さんは、他にも多くの井上ひさしさんの作品の装丁や、井上さんが座付き作家を務めた劇団「こまつ座」のポスターも手掛けられています。



装丁：安野光雅

## 『大人の友情』(河合隼雄 著/朝日新聞社/2005年/

158||Ka 93) は、「友達が欲しい」、「友人の出世を喜ぶるか」など、大人のための友情論を臨床心理学者が伝える一冊です。装画にはやわらかな筆遣いの風景画が使われ、読者をやさしく迎えてくれます。著者の河合隼雄さんはあとがきの中で「毎回挿絵を描いて下さる安野光雅さんの絵が、実に素晴らしくて、後押しをしてもらっているように感じた。一枚の絵がいろいろなことを語りかけてくるのである。安野さんは対談をしたりして親しくしていただいているので、絵の背後から安野さんの友情論が聞こえてくる感じがした。」と書かれています。



装画・本文画/装幀：  
安野光雅

## 『小さな家のローラ』(ローラ・インガルス・ワイルダー 原作/安野光雅

絵・監訳/朝日出版社/2017年/933||W 74) は、1932年に出版された『大きな森の小さな家』を安野さんの絵と訳で描きおろした一冊です。家族の温かさや自然の豊かさが伝わってくる装丁です。西部開拓時代のアメリカの物語を、安野さんによる挿絵や説明図によって親しみを感じながら読むことができます。



## 『ハムレット ちくま文庫 シェイクスピア全集1』(シェイ

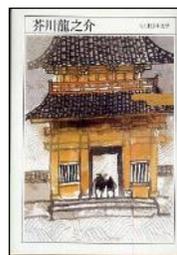
クスピア 著/松岡和子 訳/筑摩書房/1996年/932.5||Sh 12||1)。  
安野さんは、1985年に出版が始まった「ちくま文庫」の立ち上げから関わられ、文字の大きさや表表紙のまわりを白く残すなど「ちくま文庫」のフォーマットは安野さんによるものです。この「ちくま文庫 シェイクスピア全集」では、舞台の一場面を切り取ったような装画がシェイクスピア作品へと誘います。



装幀者：安野光雅

## 『芥川龍之介 ちくま日本文学002』(芥川龍之介 著/筑摩

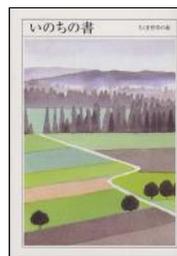
書房/2007年/918.6||C 44||2)。「ちくま日本文学」(全40巻)は、日本文学を代表する作家の名作を集めた文庫サイズの全集です。一卷ごとに異なる装画からは、作家や作品の持つ空気感が伝わり、本を選ぶのが楽しくなります。また、002・005・017巻では編集協力としても参加されている安野さんの解説を味わうことができます。



装幀者：安野光雅

## 『いのちの書 ちくま哲学の森4』(鶴見俊輔[他] 編/筑摩

書房/2011年/104||C 44||4)。  
安野さんが編者として携わった「ちくま哲学の森」(全8巻)。装丁者の安野さんの視点から各巻のテーマに寄り添った美しい装画が目を引きまます。4・8巻には安野さんの解説付きです。



装幀者：安野光雅

今回、安野光雅さんの装丁をご紹介します中で、安野さんの作品の美しさと遊び心に触れることができました。ぜひ、実際に本を手にとってご覧いただきたいです。

参考・引用文献：・『画家のブックデザイン』(小林真理著/誠文堂新光社/2018年)

・『別冊太陽 安野光雅の世界 1974→2001』(平凡社/2001年)

・『絵のある自伝』(安野光雅著/文藝春秋/2011年)

・月刊『ちくま』第529号 2015年4月号(筑摩書房)

「【特集 ちくま文庫30周年記念】手から離れた、ブックデザイン」安野光雅



## ちよこちよこ日記 #25 「図書館と私」

私の図書館との出会いは、小学校の図書室でした。自分で好きな本を好きに選んで読むことができる、そんなシンプルなことがとても嬉しかったのを覚えています。

図書室には、ほぼ毎日、女性の方がいてくださいました。小学校の近くに住むTくんのお母さんでした。図書委員になった時、本の紹介ポスターを描くことになりました。私は、図書室で借りて、びっくりするくらいおもしろかった『くまのパディントン』（マイケルボンド著／松岡享子訳／福音館書店）のポスターを描きました。Tくんのお母さんは、そのポスターを見て、「パディントンだね。私も好きだよ。」とやさしく声をかけてくださいました。その一言で、図書室も本もパディントンももっと好きになったような気がします。

子どもながらに図書室で待っていてくれる人がいることのありがたさを感じました。そして、それが今につながっているんだなとしみじみ感じる今日この頃の私です。

## こんな本読んでみて No.85

2020年10月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>